

## 6. 具体的対応

施設において感染の発生が疑われる場合、感染の予防や拡大を防ぐ対応が必要です。

### (1) 排泄介助のポイント

感染症が疑われる場合は、排泄係を決め、給食係を可能な限り兼任しないようにすることがすすめられます。

#### 《必要物品》

使い捨てエプロン、使い捨てマスク、使い捨て手袋、ビニール袋（大・小）、ペーパータオル、消毒用アルコール、0.1%及び0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液、汚物を入れる容器

※ 使用するものはすべて使いやすい状態にして手元におき、補充する場合は触れた場所の消毒を行うか、他の職員にお願いします。

※ 物品はトイレ専用のものでします。

- ◇ 介助の時は、保育用エプロンを脱ぎ、**使い捨てエプロン**を着けます。
- ◇ 交換したおむつは、**ビニール袋に入れて口を縛り閉じ込め**、一時ふた付きバケツへ入れます。後でまとめて決められたゴミ箱へ廃棄します。
- ◇ 介助する職員は、**使い捨て手袋**を使用します。使い捨て手袋が汚染された場合は、手袋を交換します。使い捨て手袋の使用後は、十分な手洗い、アルコールで手指を消毒します。
- ◇ **使い捨て手袋は、子どもひとりひとり交換**します。
- ◇ 使用済みの**使い捨てエプロン・使い捨てマスク・使い捨て手袋は、ビニール袋に入れてから廃棄**します。



◇おまるの消毒

- ・ おまるは、排泄物を流し、水洗いしてから 0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒します。
- ・ 下痢の場合は、おまる内の下痢便をトイレに流し、おまるを洗い流してから 0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、10分後に水洗いします。



◇ おむつ交換マットの消毒

- ・ 通常、おむつ交換を終えたら、ペーパータオルに十分な量のアルコールを塗布し、マットを拭きます。
- ・ ペーパータオルは、使用済みのおむつと一緒に廃棄します。
- ・ 感染症が疑われる場合は、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、10分後水洗い、日光消毒します。
- ・ おむつ交換マットを置いたおむつ台または床は 0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒をします。

◇ おむつの廃棄について

- ・ ふた付きのおむつ専用ゴミ箱へ廃棄します。
- ・ おむつを廃棄するバケツの置き場は、トイレまたは保育室以外の場所とし、清潔区域外とします。
- ・ おむつの廃棄は、清潔エリアを通らない動線とします。
- ・ 動線上でおむつ系の触れた場所は、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液を塗布したペーパータオルで拭きます。

**※下痢が治っても数日から数週間は排泄物にウイルスが排泄されますので、排泄介助は注意しましょう。**

## (2) 嘔吐物処理のポイント

### 《必要物品》

使い捨て手袋、使い捨てエプロン、使い捨てマスク、ビニール袋（大・小）、使い捨てタオルまたはペーパータオル、バケツ、0.1%及び0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液

※ 処理に必要な物品は、すぐに使える場所（各クラス毎・各トイレ毎）に1セットにして揃えておくと良いでしょう。

### ① 嘔吐物処理

- 嘔吐物処理する職員（1人か2人）、他の園児が汚染場所に近づかないように誘導する職員（1人）に分かれて対応します。
  - ※ 嘔吐したことを周囲に知らせます。（全クラス・事務室・給食室）
- マスク・使い捨てエプロン・使い捨て手袋を着用し、ビニール袋で足カバーをします。**バケツにビニール袋をセットします。
  - ※ 足カバーは使い捨てをすすめます。消毒して繰り返し利用するのであればビニール袋のかわりにバスブーツ等でも可能です。
- 嘔吐した園児の様子を観察します。園児の衣類が汚れていたら新しい衣類を用意します。汚れた衣類を脱がせ、ビニール袋に入れます。使い捨て手袋が汚染されたら新しい手袋に替えてから園児の着替えを済ませ、他の職員に嘔吐した園児を預けます。
  - ※ 必要時、保護者へ連絡し、早退・医療機関の受診について説明します。
  - ※ ベッドで休ませる時は、頭の下にビニールエプロン等を敷いたりバケツを準備する等、再度嘔吐した時に対応できるようにします。
  - ※ 嘔吐物で汚れた衣類は、塩素消毒を行うと漂白する可能性があること等から、保護者に消毒または処分の方法を説明し、家庭処理とします。汚れがひどく、施設で洗い流す程度までの処理を行う場合は、使い捨ての手袋、使い捨てのエプロン、マスクを着用して行い、洗い場の消毒も行いましょう。

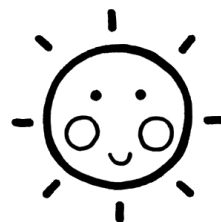
- 4) 嘔吐物の処理をします。嘔吐物に使い捨てタオルかペーパータオルをかけて水分を吸い取り、広がらないようにします。外から中へ向かって取り除き、バケツにセットしたビニール袋に捨てます。この処理が終わったら、一度、使い捨て手袋をはずし、ビニール袋に捨てます。
- 5) 新しい使い捨て手袋を着けます。嘔吐した場所を中心に新聞紙またはペーパータオル等を広げ、0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液をかけてしみこませ消毒します。半径2～3m程度をしっかりと消毒します。その周りの床や壁も消毒し、10分放置します。
  - ※ 嘔吐物は広範囲に飛び散ります。
  - ※ 床材によっては消毒液が流れてしまうので新聞紙またはペーパータオル等を数枚広げます。カーペット等の場合、嘔吐物を拭き取った後、スチームアイロンなどで十分に加熱し、ウイルスを不活化させる方法もあります。
  - ※ 消毒液は、刺激などから十分な換気を行いながら使います。
  - ※ 次亜塩素酸ナトリウム溶液中での消毒中は、換気を行います。
- 6) マスク・使い捨てエプロン・使い捨て手袋・足カバーをはずし、ビニール袋に入れる。ビニール袋は二重にします。使い捨てエプロンは表になっている面を中にくるむようにしてはずし、手洗いをします。
- 7) 10分後、新しい使い捨てエプロン・使い捨て手袋をして、消毒した場所の新聞紙等を集め、ビニール袋に廃棄します。(消毒した場所は、水拭きします。)
- 8) 触れたドアノブ等は、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、10分後に水拭きをします。
- 9) 処理した職員は、上履きの裏を消毒、手洗い、うがいをします。

## ② 嘔吐物で汚染した食器の消毒方法

- 1) 嘔吐物はペーパータオルで取り除きます。
- 2) 食器をビニール袋に入れ、決められた場所に持っていきます。
- 3) **0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液に10分つけます。**
  - ※ 食器をつける消毒液は、処理をしない職員が作って渡します。
- 4) 食器を水洗いします。
- 5) 消毒後の食器はビニール袋等に入れ、各保育施設の所定の場所に返却し、調理員に声をかけます。ただし、**他の食器とは別に返却**します。
  - ※ 子どもの食事を搬出する棚以外のところから返却します。

### ③ 園庭、砂場等の嘔吐物処理

- 1) 嘔吐物を使い捨てタオルやペーパー類・シャベル等で取り除きます。
- 2) 嘔吐物周囲の土や砂は、少し広い範囲で取り除きます。
- 3) 吐物がかかった砂場などは0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液を飛び跳ねないように静かにかけます。
  - ※ 園児が近寄らないよう三角コーン等を立て、消毒範囲がわかるようにします。
  - ※ 次亜塩素酸ナトリウム溶液をかけた後は水を流さなくてもかまいません。
  - ※ シャベル等を使用した場合は、0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、10分後水洗いします。

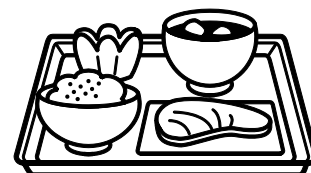


### (3) 食事

配膳ワゴンを使う前に水拭きをします。ワゴンの置場も不潔にならないよう工夫してください。

- 1) 石けん、流水で十分に手を洗い、ペーパータオルで拭きます。
- 2) テーブルは、きれいな台布巾で水拭きします。
- 3) 職員は使い捨てエプロンまたは食事専用エプロン、使い捨て帽子または三角巾を着用します。園児の給食当番は白衣・帽子を着用します。
  - ※ 手洗いは、声をかけしっかり行いましょう。
  - ※ 配膳の時は、マスクを着用しましょう。
  - ※ 必要時、手袋を着用します。
  - ※ 食事用エプロン・食事用三角巾は、毎日洗濯します。
  - ※ 下痢や嘔吐をした園児は、給食当番は可能な限り2週間程度控えましょう。
- 4) 配膳します。
  - ※ おしゃべりをしたりせず静かにしましょう。
  - ※ 他の食器に触れないように注意します。
  - ※ 配膳する人の指が食器内に入らないように注意します。
- 5) 給食をいただきます。

- ※ スプーン、箸の共用はしません。
  - ※ スプーン、箸が床に落ちた場合は予備を使用します。
  - ※ 食事中、床に落ちた食べ物は、処分します。
  - ※ 嘔吐した場合は、嘔吐物処理に準じます。
- 6) テーブルは水拭きします。
  - 7) 床を掃除し、食べこぼしを取り除き、水拭きします。



#### (4) 調乳のポイント

調乳係を決めます。・・・できれば排泄係を兼任しないようにします。

体調不良、手指の傷がある場合は調乳係をしないようにします。

- 1) 保育用エプロンをはずし、手洗いをします。
- 2) 調乳専用のエプロン・帽子（三角巾）・マスク・サンダルを着用します。
- 3) 調乳台を水拭きし、乾いてからアルコールで消毒します。
  - ※ 下痢・嘔吐発生時には、0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒します。
- 4) 石けんと流水で手洗い、ペーパータオルで拭き取ってからアルコールで手指消毒します。
- 5) 保管ケースから、哺乳瓶・乳首・計量スプーンをとりだします。
  - ※ 保管ケースは毎日洗浄し、アルコール消毒します。下痢・嘔吐発生時には0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒します。
  - ※ 殺菌庫を使用する場合は、メーカー取扱い説明書を確認します。
- 6) 必要な湯の量と粉ミルクを確かめます。
- 7) やけどしないよう、清潔な布巾などを使って哺乳ビンを持ち、70℃以上のお湯を1/3程度入れて粉ミルクを溶かし、さらに必要量の分量までお湯を加えます。
  - ※ 乳児用調整粉乳の調整に当たっては、使用する湯は70℃以上を保つようにします。
- 8) 乳首とキャップをしっかりと哺乳瓶に装着し、流水で冷やします。
  - ※ 授乳できる温度まで冷やします。このとき、中身が汚染しないよう冷却水を当てるようにします。
  - ※ 哺乳瓶の外側に付いた水を、清潔な布巾またはペーパータオルで拭き取ります。

※ 授乳させる職員は、髪を縛るなど身支度を整え、直前に手を洗っておきます。

- 9) 調乳後2時間以内に使用しなかったミルクは破棄します。
- 10) 使用した物品は専用ブラシ、洗剤にて十分に洗浄します。
- 11) 消毒したら保管庫に入れます。
- 12) 調乳専用エプロン・帽子（三角巾）を外表にして室内で保管し、サンダルを脱ぎます。

#### ◇ 哺乳瓶・乳首・キャップ・計量スプーンの消毒方法

- ・煮沸消毒
- ・塩素系消毒剤での浸け置き消毒  
※使用方法は商品の説明書等を参考
- ・電子レンジにて熱水消毒

#### ◇ 洗浄ブラシの取り扱い

中性洗剤等で洗浄し、乾かします。1日1回0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒し、水洗い後乾かします。

#### ◇ 調乳室の消毒

通常時は調乳台を週に1回0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液にて消毒します。



## (5) 歯磨き

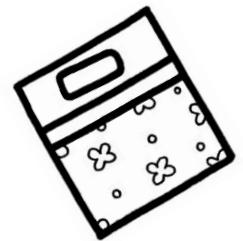
- 1) 歯ブラシ・コップは個人用とし、他の園児の物と間違えないよう声をかけます。
- 2) 歯ブラシ・コップをよく水ですすぐように指導します。
- 3) 歯ブラシをコップに立て専用のトレイに置きます。  
※ 毎日持ち帰りの場合は、歯ブラシの水分をよく落とし、かばんにしまえます。
- 4) 歯磨きをしない年齢児は、おやつ・昼食後にお茶を飲み、食べかすが残らないようにします。

## ◇ 保育所での歯ブラシの消毒・保管

- ア) コップの中にブラシがつかれる程度の 0.02%次亜塩素酸ナトリウム溶液を入れ、10分以上浸け込みます。
- イ) 水で十分すすぎます。
- ウ) 水気をふるい落とします。
- エ) 清潔な場所で自然乾燥または日光消毒します。
- オ) 専用の歯ブラシボックス、ふた付きトレイにコップを保管します。
- カ) 1週間に1度コップを洗剤で洗浄します。

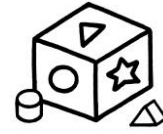
## (6) 午睡

- 1) 部屋を清潔にし、安全を確認します。
  - ※ 室内は、毎日掃除機と水拭きなどで丁寧に掃除します。
  - ※ 業者により、年2回の害虫駆除をします。
  - ※ 夏場は部屋に蚊を取る薬剤等を置きます。
- 2) 午睡しやすい環境を確認します。
  - ※ 温度・湿度の適正管理
  - ※ 加湿器は、タンクをこまめに洗浄し、毎日水を入れ替え、常に清潔にしておきましょう。
- 3) 寝具類（敷布団・上掛け）や午睡時使用の備品は常に清潔に保ちます。
  - ※ 週末は家に持ち帰り、布団カバーなどの洗濯・布団の日光消毒をします。
  - ※ ベッド柵は毎日水拭きします。汚染した場合は水拭きします。
  - ※ 保育所の寝具を使用し、汚染した場合は、カバー類は洗濯・乾燥します。
  - ※ これらの物品を嘔吐物や便尿で汚染した場合はそれぞれのマニュアルに準じます。
- 4) 着替えの衣類は個人の決められた場所に置きます。
- 5) 具合の悪そうな園児は観察しやすい場所で午睡させます。
- 6) 咳の出る園児は端に寝かせるか、ほかの園児からできるだけ離します。マスクができるようならします。
- 7) 布団を収納する押し入れ内は週1回掃除機で丁寧に清掃します。





## (7) 遊び（内、外）



### ① 室内遊び

- 1) 遊びの後は、手洗いをします。
- 2) ゴザなどは、定期的に掃き掃除、拭き掃除をします。
- 3) おもちゃの衛生管理については「4. 環境整備、食品衛生」を参照してください。

### ② 外遊び

- 1) 室内に入る前に洋服の汚れを落とします。
- 2) 流水と石けんで手洗いして室内に入ります。
  - ※ 外遊び前に園庭を点検し糞（犬・猫・鳥）を見つけたら処理します。
  - ※ 蚊に刺されないように注意しましょう。  
（長袖、長ズボンの着用、蚊の忌避剤の使用等）

## (8) プール、水遊び

- 1) 子どもの体調を確認します。プールの許可が保護者からでているか確認します。
  - ※ 感染症の症状の有無を観察します。（咳、発熱、鼻水、嘔吐、下痢、化膿創、目やに、目の充血など）
  - ※ プールに入れない疾患等を、あらかじめ保護者・職員へ周知しておきます。
  - ※ 感染症が疑われる下痢をしていた場合、普通便に戻ってもしばらくの間ウイルスを排出している可能性があるため、プールへ入れることを見送る必要があります。
  - ※ 座って更衣をする場合は、床に専用のマット等を敷きます。（おしりは床につけないようにします）
  - ※ マットは使用后アルコールで消毒します。
- 2) シャワーで全身を流します。特におしりはきれいに流します。
  - ※ 途中トイレに行った場合は、シャワーでよく流してからプールへ入ります。
  - ※ アトピー性皮膚炎の場合、塩素系消毒剤で症状が悪化する場合はあ

るためシャワーでよく流して上がります。目も洗います（洗いすぎない程度に）。

※ タオルは個人のものを使用します。

## ◇ 水質管理

- ・ プールの水は毎日交換します。
- ・ プールの水は塩素剤で消毒します。日光や遊泳者が持ち込む汚れで残留塩素濃度が低下するため、遊泳前に残留塩素濃度を測定し、0.4～1.0mg/lに保持します。残留塩素濃度は、チェック表等を用いて管理します。

※詳細は「5. 消毒薬」＜プールの消毒手順(乳児用ビニールプール)＞を参照してください。



## ◇ プールの清掃

- ・ プールの水を流した後、ブラシ等でこすり洗いをして乾燥させ、藻の発生防止に努めます。
- ※ 汚染を換水後のプールに移行させないように注意します。
- ・ プール内で便失禁があった場合は、汚物を取り除きプールの水を破棄した後、0.1%次亜塩素酸ナトリウム溶液にて消毒します。

## ◇ 玩具の管理

- ・ プールで使用した玩具は流水で洗浄し、よく乾燥させてから保管します。